

五月の風が爽やかな季節ですね。地図を片手に、普段あまり通ったことのない道を歩いてみませんか。

市史編さん室の近く、堤橋のひとつ上流に松園橋という歩行者・車椅子・自転車のみ通れる橋がかかっています。これは、昭和43年（1968）に東北本線（現青い森鉄道）が現在地に移転するまで走っていた鉄橋の名残です。市街地図を眺めてみますと、途中分断しながらも、青い森セントラルパーク（操車場跡地）から、平和公園（浦町駅跡地）、遊歩道緑地、松園橋、遊歩道緑地、合浦公園南側国道付近（浪打駅跡地周辺）、造道から原別までの自転車道路と、路線の跡を読み取ることができます。

この松園橋を渡って、栄町の諏訪神社南側の辺り（タケダスポーツ裏手）から藤田組通り（栄町交差点から南北にのびる道路）までの遊歩道緑地に「文芸のこみち」があります。これは、平成6年（1994）9月22日に青森市文化団体協議会などが各団体や個人の協力を受け、第30回青森市民文化祭記念事業として、旧東北本線跡地「遊歩道」の四季有効利用を期して開設したものです。現在は、青森市にゆかりのある文化人17名の作品の一部や詩歌が刻まれた16の文芸碑が、遊歩道沿いに配置されています。



文芸のこみち

文芸碑には、<sup>だいどうじしげよし</sup>大道寺繁禎（旧弘前藩最後の家老、明治・大正の政治・経済・文化に貢献）、<sup>こおりばかん</sup>郡場寛（植物学者、県人初の弘前大学学長）や、<sup>きたばたけや お</sup>太宰治・寺山修司・北 畠八穂など青森ゆかりの作家、<sup>まつきまんし</sup>棟方志功（版画家）・松木満史（洋画家）などの美術家、また、淡谷のり子（歌手）・田崎潤（映画俳優）といった芸能人などの碑が並んでいます。ほかにも、<sup>あさだぎねん</sup>浅田祇年、<sup>ふくしまつねさく</sup>福島常作、原三千代、川崎むつお、西谷みさを、菊谷栄、高木恭造、三ツ谷平治らの碑があり、これらひとつひとつの碑文には、その人の生き方や青森への想いが表れているように感じます。



棟方志功の文芸碑



寺山修司の文芸碑

文芸のこみちや、その東西にのびる旧線路跡には、区域ごとにケヤキ・サクラ・トウカエデ・ヤナギなどが植えられ、これからの季節、緑陰が涼しく静かで気持ちのよい遊歩道です。平成 24 年 10 月 19 日配信の「あおもり歴史トリビア」第 29 号「諏訪神社の歴史」でご紹介した、戦前に合浦公園にあった招魂堂を昭和 25 年に移築したという諏訪神社拝殿も合わせて、初夏の堤川周辺を散策されてはいかがでしょうか。



諏訪神社拝殿

また、今回発刊いたしました『新青森市史』通史編 第 3 巻 近代の「近代青森の文化芸能活動」、通史編 第 4 巻 現代の「地域に育まれた文化活動」「青森市の戦後文学の隆盛」で、これらの文化人の幾人かについてふれていますので、ぜひお読みいただければと思います。